

## ユースボランティア茅ヶ崎 2023 事業報告書



(社福) 茅ヶ崎市社会福祉協議会と(認定特非) NPO サポートちがさきの共催で、中学生から大学生(25歳まで)を対象に夏休みのボランティア体験をコーディネートしています。19回目を迎えた今年はコロナ禍前の通常通りで実施できました。

・申込期間 6月15日(木)～7月3日(月)

参加者募集チラシは、茅ヶ崎市内の公立中学校、神奈川県立高校、私立高校の全校生徒に配布

・STEP① オリエンテーション(参加必須)

1回目: 7月8日(土)10:00～12:00

2回目: 7月8日(土)14:00～16:00 @さがみ農協ビル5階大会議室

いずれかの回に必ず参加。都合がつかない学生を対象に個別対応も実施。

ボランティア体験に向けての心構えや体験先の紹介を受けた後、体験したい団体のブースへ行き、担当者と面談し体験日を決定しました。

～オリエンテーションの様子～



会場設営や案内・受付は、市内3校の高校へ運営ボランティアとして依頼

=参加者=  
1回目: 98名  
2回目: 47名  
別日: 18名



いつもと違う正解を体験してみよう!

～体験談～



「人の役に立てることに喜び」「団体の活動の面白さ、ボランティアの面白さや楽しさを感じて欲しい」と、集まった参加者へ思いを伝えました

～団体との日程調整～



### 【体験先の受入団体・施設 23カ所】

- ・生活リハビリクラブ茅ヶ崎
- ・(社福)翔の会 萩園ケアセンター
- ・(社福)翔の会 湘南鬼瓦
- ・(社福)翔の会 ブルーベリー
- ・(社福)翔の会 水平線
- ・(社福)翔の会 入道雲
- ・NPO 法人松の実会 みらま～る
- ・NPO 法人トムトム あいあいクラブ
- ・地区社協・ボラセン(茅ヶ崎市内9地区)
- ・NPO 法人ちがさき学童保育の会
- ・ぽかぽか保育園
- ・わくわく保育士ボランティア(茅ヶ崎市内17の社会福祉法人立保育園)
- ・NPO 法人ワーコレたんぽぽひろば たんぽぽはうす
- ・きらきらぼし(子育て応援する会)
- ・ちがぼ～(茅ヶ崎に冒険あそび場をつくろう会)
- ・NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会
- ・茅ヶ崎里山公園倶楽部
- ・ほのぼのビーチ茅ヶ崎
- ・サーフ90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- ・NPO 法人湘南市民メディアネットワーク
- ・湘南動物愛護病院
- ・NPO 法人 WE21 ジャパンちがさき
- ・認定 NPO 法人 NPO サポートちがさき

(順不同)

体験先は 23 施設団体、約 50 カ所。分野は福祉施設、子ども支援、福祉、環境、地域安全、国際支援など多岐にわたる

・STEP② 体 験 期 間 7月21日(金)～9月9日(土) ※最低2日以上の体験を推奨

参加人数：163名（中学生62名、高校生97名、大学生以上4名）



・STEP③ シェア de ボランティア 8月22日(火)14:00～16:00 @ちがさき市民活動サポートセンター  
ユースボランティア参加者26名、体験先の担当者5名

～体験を振り返り、参加者で意見を共有する場～

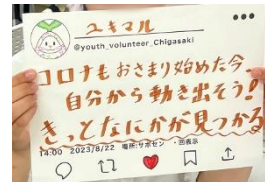
～グループワーク

「よかったこと」「大変だったこと」「気づいたこと」  
を各々、書き出し意見を共有後、グループごとに発表



～個人ワーク

「私が100万人以上のフォロワーがいるインフルエンサーだ  
ったら、SNSでボランティアについてどう発信する？」



個性あふれるワードがたくさん！

■参加者体験レポートより(抜粋)

【福祉施設】

- ・障がいをもった友人もいるので接し方などわかっているつもりだったが、想像しているより難しくかなり考えさせられた2日間だった。2日目は1日目より接する子の性格が分かってかわかった
- ・将来、福祉系の仕事に就きたいと思い参加した。初めてで怖かったが温かく迎えてくださり、仕事も丁寧に教えてもらいとてもやりやすかった
- ・利用者さんたちと一緒にレクリエーションを楽しみ、時には利用者さんが悔しがったり喜んだりする姿や表情がとても印象的だった

【子ども支援】

- ・普段、小さい子と関わる機会がなく、どう接したらいいかわからず不安でしたが、先生を見て「こういう時はこう言うんだよ」と色々なことを学ぶことができた
- ・小さい子に対して次に何を言えば楽しい気持ちになってくれるか常に考えることが大変だった

【環境/地域安全/国際/社会教育 他】

- ・ビーチクリーン体験でたくさんのマイクロプラスチックを回収した。普段気にせず海に行っていた自分が恥ずかしくなり、地域活動の一員になれたことが何よりも嬉しかった
- ・ボランティアに来ている他校の人や公園に遊びにきている方と話をしたりして色々な人と関わったのが楽しかった
- ・活動内容やどんな思いで活動しているのかを自分でその場所に行き、その人たちと交流をし、間接的ではなく直接景観することのすばらしさを考えることが出来た

■最後に

この夏のボランティア体験により自分が社会や地域にどう貢献できるか考える「きっかけ」になったのではないのでしょうか。体験先での交流や人とのコミュニケーションを通して、新しい価値観や社会・地域の課題など、新しい発見に気付いてくれたら嬉しいです。そして、その気付きが自身の成長に繋がることを期待しています。